

総合講義「環境論入門」

2024年度後期・水曜・5限

1. 講義概要

「世界で起こっている環境問題を知る」をテーマに、外部の専門家等を講師に招いて学習する講義です

2015年9月25日の国連総会で世界目標「持続可能な開発のための2030アジェンダ」(略称:SDGs)、2050年カーボンニュートラルの実現を目指すための「パリ協定」を中心に詳しく説明をします。

地球規模の温暖化問題、PM2.5などに含まれる有害物質による大気汚染、漁具や使い捨てプラスチックの投棄や流出による海洋汚染が、自然環境を破壊し、人間や動植物、農作物や漁業・海洋資源に深刻な影響を及ぼしています。このような身近になった環境問題について専門的に学習します。

2. 履修条件

- ・ 講義中に英語を使用することがあります。通訳は入りませんので、自力で英語を理解できることが条件になります。
- ・ 講義は、基本的に対面方式で行います。
- ・ しかし、ビデオ講義(オンデマンド)で行う場合もあります。
- ・ 出欠は、毎回講義内で確認します。

3. 受講定員

教室に入れる人数を上限とします。

4. 成績評価

出席状況、課題提出状況、期末試験から総合的に判断し、評価します。

5. 授業内容(仮)

- 1回 ガイダンス
- 2回 SDGsと環境問題
- 3回 環境問題と国際協力
- 4回～14回 環境問題の事例中心
※詳細は1回目の講義の際に説明
- 15回 期末試験

6. メッセージ

すべての学生にとって環境問題は、将来知っておくべき役立つ内容がたくさん含まれています。知らない世界の真実を学ぶことができます。魅力ある講義になるようにします。

Save the Earth and Human Health

ロシア軍のウクライナ侵攻による懸念される環境破壊

- 侵攻によって、土地や生息地の破壊、ミサイル攻撃による山火事、土壌や水質汚染が起きている。砲撃による工業用地の火災は、さらに大気、土壌、水質の汚染を引き起こしている
- ロケットや大砲の原料となる化合物(一酸化炭素、二酸化炭素、水蒸気、一酸化窒素、二酸化窒素、ホルムアルデヒド、シアン化水素蒸気、窒素)は爆発後に酸化され、生成物が大気中に放出される
- 生成物の大部分を占める二酸化炭素と水蒸気は、毒性はないが気候変動の要因となる。一方、硫黄酸化物や窒素酸化物は酸性雨の原因となり、土壌のpHを変化させ、特に針葉樹の植物が被害を受ける。また酸性雨は、人間や他の哺乳類、鳥類の粘膜や呼吸器官に影響を与える
- 砲弾の金属片も環境にとって安全ではない。弾薬ケースの材料として一般的な鉄を混ぜた鋳鉄は、鉄や炭素だけでなく、硫黄や銅も含む。これらの物質が土壌に入り、地下水に溶け出し、やがて食物連鎖を経て、人間や動物に影響を与える可能性がある

ロシアのウクライナ侵攻による環境・気候被害への深刻な懸念

- ロシアのウクライナ侵攻は、人権と人命に対して直接的な影響を及ぼす
- 戦争による環境影響は、壊滅的な影響が拡大され、それ自体が人権、健康、福祉、生活に対する即時および長期の脅威となる
- ロシアは核施設・化学施設を攻撃対象としたり、その近辺で戦闘したりするのを直ちにやめること
- こうした行為は、ウクライナ国内外で人間の健康や環境に対して、長期的で広範な、あるいは深刻な影響を引き起こす甚大なりスクがある

出所 : <https://toda.org/jp/global-outlook/grave-concern-for-environmental-and-climate-damage-caused-by-russian-invasion-of-ukraine.html>

SDGs 4.7

4 質の高い教育を
みんなに



2030年までに、持続可能な開発のための教育及び持続可能なライフスタイル、人権、男女の平等、平和及び非暴力的文化の推進、グローバル・シチズンシップ、文化多様性と文化の持続可能な開発への貢献の理解の教育を通して、全ての学習者が、持続可能な開発を促進するために必要な知識及び技能を習得できるようにする。

教師と生徒は、アジェンダ2030の実施に不可欠なアクターとみなされている

- ✓ 持続可能な開発のための学習を通じて、生徒は持続可能な問題に取り組むための行動力を身につけさせる
- ✓ 持続可能な開発に影響を与える分野を知っているだけでは不十分で、持続可能な開発に貢献する能力とモチベーションとなる原動力を身につけさせなければならない ⁵

